



同窓会報

平成23年度春季号

発行 宮城県仙台第二高等学校
同 窓 会
仙台市青葉区川内蔵橋通一
番二二一五六一(直通)
印刷 創文印刷出版株式会社
仙台市青葉区春日町八番三十四号

巻頭言

会長

西澤 潤一 (中44回)



脊稜山脈の西側を通って日本海を北上して消えてしまつか、或いは脊稜山脈の東側を北上して消えるものと考えていた。現に記憶する古い範囲では戦後仙北の石越地震が記憶に残っているだけに過ぎない。

戦争が始まった昭和十六年は本校三年に在学中であった。日本海軍が英国戦艦レパルス

私の一族は元来中央或いは西日本に暮らして来た人々であるらしく、三陸津波のことなどに関しては知識の持ち合わせは少ない方である。然し、それでも当時の恐ろしい話について聞くことが多く、「地震・雷・火事・オヤジ」と言うが、オヤジとはオオヤマジ即ち台風、嵐のこと、特に恐ろしいのがこのオオヤマジで、逃げれば難をのがれる火事より恐ろしいと言われている。けれども我々悪童共もさして真面目には考えていなかったのが事実であり、水の恐ろしさを知らなかったと言えよう。現に仙台は天変地異の少ないところと言われている、証據としては、台風は

戦後、昭和三五年塩釜などに津波が襲来するまで殆んど天災がなかったが、地球が球体であるために津波はチリの地震発生翌日遠く地球の裏

側から到達する事となったが、同一地点に集中して来るレンズ作用として珍しがられた。更に十八年後には比較的近い宮城県沖で地震が発生し、盛土して住宅地とした所が多くに宮城県でブロック塀が倒れて被害をふやしたり、砂地の海岸埋立地に被害が多かった。津波の被害が多かったのは、このすぐ後に起こった日本海中部沖地震(昭和五八年)であった。

以上を振り返って見ると、我が国は地震国と言われるだけあって、相当頻繁に地震を体験しているが、その割には体験が生かされているとは言えない。

昔、姉が小学校に居た頃、国語の第二教科書のような小冊子が配布されていて、生まれて育った土地の言いつたえを子供達に教える風習があった。私が小学校に入る頃にはそんな風習はなくなってしまうていたが、大体国語の教科書自体がそのようなお話で構成されていたように思う。

こんな例で忘れられないのは「いなむらの火」という話で、海岸の小高い後背地に居を構

平成23年度 同窓会総会のご案内

同期の方、
お誘い合わせの上、
多数ご参加下さい。

1. 日 時: 平成23年 7 月 2 日 (土) 総会17時 (受付開始は16時30分)
懇親会18時
2. 場 所: 江陽グランドホテル
＜地下鉄広瀬通下車 西一番出口徒歩 0 分＞
TEL : 022-267-5111
3. 懇親会費: 6,000円
4. 申込締切: 6月24日 (金)
★懇親会費は当日、会場でお支払い下さい。
★出席申込は、下記の申込先に、FAX又は電話をお願いします。
5. 申 込 先: 〒980-8631 仙台市青葉区川内蔵橋通 1
仙台二高同窓会事務局
TEL 022-221-5651 FAX 022-221-5686
6. 当番回期: 高22、34、35、46、47回

この回期の方々は常任委員を中心に協力をお願いいたします。

《なお、同窓会年会費は総会当日会場受け付けでも御納入可能です。》

えていた庄屋が、地震の後、戸外に出て見ると沖合の海水が急速に引きつづつあるのに気がついた。とても山を降りて村民に知らせる暇はない事に気が付いた庄屋は丁度秋の収穫を終えて庭先に出来ていたいなむらに次々と火をつけて廻っ

た。火に気がついた村民は次々と駆け上がった火を消しに駆けつけ、遂に全村民が命拾いするというお話である。今回の地震において願うことは、この様な胸のあたたまる話が語り伝えられて多くの人々の命が救われる事である。

創立記念講演会

「二高生諸君、
チャレンジを！」

KDDI代表取締役会長 小野寺 正氏



創立記念講演
——KDDI 小野寺正氏（高18回）
平成23年 5 月 6 日講堂にて

今年の母校創立記念講演会は、去る五月六日（金）午後一時十五分から講堂で行われた。講師はKDDI代表取締役会長小野寺正氏（高18回）。「物事を成し遂げるには、能力・努力・熱意そして正しい考え方などの条件が不可欠だが、特に大切なのは『正しい考え方』である。皆さんはこれからの人生において『何が正しい考え方』なのかということを実際に勉強してほしい。また、現今の多岐にわたる情報通信手段を持つ社会においては、皆さんは情報の受け手であると同時に、情報の発信者になっているということに気がついてほしい。現在、情報社会におけるいろいろな問題点が指摘されているが、それは利用者自身が情報の発信者になっていることに気づいていないからである。『情報の受け手が即、情報の発信者になっている』ということを意識しながら関わって行けば情報社会はもっと安全なものになる筈である。

また、これからの情報社会にあつては、情報に対する各人の感受性を研ぎ澄まし、その真偽を十分に見極めた上で、それらをツールとして活用し、創造性に結びつけ、自分が他の人とは異なる『価値ある情報』をいかに発信して行けるかが問われることになる。

若い皆さんにとって失敗は恐れる対象ではなく、その失敗経験をいかに活かして行くかということが大切になる。『失敗を恐れず、何事にもチャレンジ』して行ってほしい」と結ばれた。

講話終了後、約千人の生徒達からは次々に活発な質問が飛び出し、時間の制約上、途中から質問を打ち切るほどの盛況のうちに、一時間半を超え、講演会が終了した。

なおこの講演会には西澤会長も出席され、熱心に聴講された。（山下健二記）

同窓生からの寄贈本の御紹介

（平成21年度）

●東北の歴史

●「兵士」になれなかった三島由紀夫

●Newsweek 他

●水曜日はどこでしょう

●「花野抄」7、11集「奇」1、2 計7点

●「語りつくす私の戦争体験」2 仙台空襲（みやぎ憲法ブックレット5）

●世界35ヶ国写真集 科学者の心

●「花野抄」12集

●風の環 武藤順九の宇宙

●企業のための環境法

●昆野恆作品集 昆野恆展 計2点

●明日のための生命のエキス

●歴史ポケット人物新聞回天ふたたび坂本龍馬

●強い頭と速い頭

●指導的人材の育成（日本の教育改革を進める会

●光通信物語（渋谷寿著）

（平成22年度）

●ノアの方舟はなぜ沈まなかったのか

●東北大学スケート部80年史

●大東亜戦争と日本人の課題

●（図書カード一万分分）

●歌集 波の粒

●小説の読み方

●縫製の手引

（平成23年度）

●札幌農学校（蝦名賢造著）〈復刻版〉

●医療薬理学

●Neocarzinostatin The Past, Present, and Future of an Anticancer Drug

●講座 公教育体系 伊藤和衛編著 他

●講座 公教育体系 伊藤和衛編著 他

八代 典二（中36回）様

猪狩 武（高5回）様

浦上 尚隆（高49回）様

加藤 邪吞（文彬）（高11回）様

加藤 邪吞（文彬）（高11回）様

太田 和孝（遷水）（高11回）様

小山 朗（高36回）様

海老名卓三郎（高11回）様

加藤 邪吞（文彬）（高11回）様

武藤 順九（高20回）様

岩淵 勲（高15回）様

昆野 恆（中33回）（故人）様

関 茂（高19回）様

及川 拓哉（高40回）様

西澤 潤一（中44回）様

鈴木 勝王（高16回）様

石田 武彦（高9回）様

落合 道夫（高14回）様

阪田 隆広（高44回）様

桂 重俊（中40回）様

秋本 博夫（高36回）様

丹野 雄兆（高2回）様

小出 精（高7回）様

江戶 清人（高21回）様

牛田 敏（高4回）様

『仙臺二中移転秘史』について

南條信郎（中42回）

昨年十二月発行の会報43号

にてお知らせ致しておりまして通り、中学42回南條信郎様から仙臺二中移転秘史に就いて以前お書きになっていた文章を頂いておりまして、簡易年表と共に掲載致します。南條様の御投稿に改めて感謝申し上げます。



七月（平成七年）の初め、思いがけず珍しい本が飛び込んで来た。『仙臺二中移転秘史』。著者は五代校長河合絹吉氏。ご存じの通り、我々が入学する直前まで一七年に亘って二中の校長を勤められた方である。我々が在学した頃、正面玄関前に先生の胸像があったと記憶する。

本はB6版九〇ページ、ざら紙に印刷された簡素なものである。奥付をみると昭和三十九年九月一〇日発行、非売品五百部限定版とある。発行所は仙台金港堂で、店主、藤原佐一郎氏が私費を投じて刊行されたものである。

土井賢志、山下忠、近江富雄、と我々にもおなじみの先生方が、それぞれ序文などの中で、本書発行に至るいきさつを述べておられるので私なりに要約してみよう。

河合先生が在職当時、「二中移転秘史」を執筆してある。これは校長室の金庫の中に秘蔵しておくが、自分の死後になつて開けられたい」と言っておられた（近江先生の「謄写者の言」より）。しかし、昭和二年、先生の他界後、歴代校長に尋ねてもそれらしきものは出てこなかった。昭和三十八年、有志の手で河合先生の胸像が再建されその除幕式が行われた時に、未亡人も来仙され『秘史』がお手元にあることが判明して、お願いして世に公開されるに至ったのである。そして『秘史』は、上質の鳥の子紙七五枚に達筆な行書草書体で毛筆で書かれていて、そのまま印刷に付すのは困難と言うことで氏江ランゴ先生が原稿用紙に清書の任に当たられたことである。

河合絹吉という方が相当な豪傑とは伺っていたが、本書を読むと二中を現在の川内に移転するまでの苦労とともに、氏の強引さ、権謀術策は大変なものだ。ご興味のある方は是非本書を通読されんことをお勧めするが、これも私なりに要約すると以下の通りである。

はじめ、二中は北六番丁の東北大病院の伝染病舎や精神科病棟、東北脳病院に囲まれ、環境が良くないと見られていた上狭かった。そこで河合先生は東北大病院に働きかけて、大学から増築用地として二中敷地買収の議を起ししてもらった。そして二中の移転先として川内の騎兵隊移転地（現在の敷地）に目を付けその獲得運動に乗り出した。大正一五年のことである。

これに対しては反対派も多く、第二師団長、県庁の学務部長、地方政党のボスたち、先輩づらをする土地利権屋等々、河合先生はこれらを一つ一つやつつけて、決定にこぎ着けるのだが、こちらも相当のものである。そんな師団長は

二中移転に係わる簡易年表

※引用元略号

（史）：仙臺二中高百年史
（秘）：仙臺二中移転秘史

大正15年

12月 宮城県議会が二中の移転と鉄筋コンクリート校舎新築を議決（史）
河合校長が「二中移転新築確定す」の電報を受け取る（秘）

昭和2年

1月 学校から県に「新築に関する希望条項」提出
1月 移転問題について卒業生有志会合（史）
1月 卒業生有志が「仙臺第二中学校校舎移転地に関する趣意書」印刷（史）↓各方面に発送、陳情（秘）

4月

陸軍大臣宇垣一成あて、二中間窓会の陳情書（秘）
4月 第2師団長より川内騎兵隊敷地払い下げ決定（史）
4月 産業博覧会に二中新校舎を充てることに決定（史）

6月

二中校舎佐藤功一博士の設計成る（史）
7月 仁田実蔵氏と23万6千円で随意契約（史）
9月 仲瀬橋（工兵橋）昼夜兼行架設始まる 工兵隊の架設演習の目的（史）

9月

仲瀬橋落成（史）
11月 仲瀬橋午前10時より渡初式（史）
昭和3年

2月

北六番丁校舎一部消失（史）
4月 東北産業博覧会（〜6月）新築校舎を第一会場本館として使用（史）

5月

二中学生徒見学（史）
10月 新校舎暖房装置寄付勧誘状発送（目標1万5千円）
11月 川内校舎への移転作業（史）
12月 スチーム暖房設備完成（史）

昭和4年

1月 在仙卒業生招待新校舎紹介（史）
4月 同窓会役員会、祝賀会の大綱と役員決定（史）
5月 移転新築と創立30周年記念祝賀会（〜7月）（史）
5月 提灯行列、展覧会、運動会、道場開き、講堂開き（講演会）（史）

昭和7年

4月 市内各中学校を招待し、運動場開き運動会を開催（史）
昭和11年

11月

河合氏の還暦祝いに胸像建立し、除幕式（史）
昭和38年

11月 胸像再建除幕式（史）
昭和39年
9月 「仙臺二中移転秘史」刊行（史）
平成12年
3月 「仙臺二中移転秘史」復刻

「狸団長」だと決め付けられ、仙台の師団や県庁に反対がある」とみると、上京して陸軍省文部省、大蔵省に直訴するのだから相手にとっては腹の立つ校長だったに違いない。また、先生は相当芝居気のある人のように、師団長室で「駄目なら私はこの部屋を借りて腹を切る」と啖呵を切って刀を抜いてみたり、また、最後の段階では、「若し、茲に切角の決定、水泡に帰せんか、只辞職の一途あるのみ」として、漢詩、俳句、和歌で三種の「辞世を予作して眠る」とある。因みにその俳句、

「蓑笠を脱ぎて身軽き
案山子哉」

かくて幾多の紆余曲折があった、敷地は河合先生の熱望の騎兵隊跡地に決定したが、そのあとに校舎の設計と着工の問題があった。これも、博覧会にも使えるように間仕切りを工夫した設計の鉄筋コンクリート造りで建設し、移転は博覧会終了後とする案が通って、費用と工程を短縮することが出来た。

河合先生はこの『秘史』を次のような言葉で結んでいる。「二中敷地問題に関しては、師団長、知事、学務部長を向ふに回し、徒手空拳、孤軍奮

闘を続けたり。而して敵の背後には不明の有力なる権力金力魔力の潜むあり。而もよくこれを撃退し、知事師団長の頭は飛び、部長は左遷せらる。空拳を開いて見れば正義の二字のみなりき。此の間余只一人の奮闘のみ。三十五人の職員ありと雖も一人の正面に立つ者なし。されども学校内の事は協力事に当たり余をして後顧の憂なからしめしとはいへ闘士のなかりしは物足らぬ心地す。」

こうしてみると、この『秘史』は、やはり氏の死後十余年を経なければ世に出る事が出来なかったのも宜くなるかなと思うのである。

因みにこの時期、次の六代校長となる土井賢志氏は県庁の視学として県側でこの問題を扱ってこられたが、県庁内の移転推進派として河合先生と気脈を通じて川内校舎の実現に努力された模様が随所に書かれている。河合先生の退任の後を受け、われわれの入学と時を同じうして二中校長に就任されたが、恐らく前任の河合先生の推轂もあったのではなかろうか。

最後に、この書を小生に送って来られたのは、私の小学校、宮城師範附属小学校で五、六

年の担任だった中村武先生である。先生をご存じの方もいらっしゃると思うので敢えて付言すると、当時の附属は受験校、進学校であり、先生はあの頃ずっと五、六年の受け持ちをして、生徒を中学に送り込むのが至上命令であられた。そのあと小学校長を歴任されて、退職後も長いこと退職学校長会の役員をやっておられた。そんな関係でこの『秘史』の一部がお手元にあったのであろう。今年（平成七年）満八十八歳、豊饒としてクラス会の度にご出席くださった訓辞を垂れたまう、私の私淑する先生である。

その先生が「これは俺が持っているよりもお前のところにおいた方が役に立つだろう」と送ってくださったものであつた。そして添えられたお手紙に、「一中・小平、二中・河合、両校長のあの時代は、両校の対抗意識が強くて、二人の校長から、俺の方に良い子を多く寄せと言われて苦労したものだ」とある。我々は無邪気に二中を受験、入学して川内の校舎で戦時下五年の星霜を過ごした。しかし、その間にも大人の世界ではいろいろあったんだなあ、と改めて思うのである。

仙台六大学野球で活躍する二高OB

高 橋 敦（高30回）

二高一高定期戦とともに、杜の都の野球戦として知られる仙台六大学野球の春秋リーグ戦は、仙台六大学野球連盟とともに私が勤務する河北新報社が共催しています。主催者の一員でもあり、リーグ戦の試合内容を長年、紙面で詳しく伝えていることから、昨

から四年秋の最終戦まで、東北大のマウンドを一人で投げ抜き、81試合に登板し、最多投球回数五六六回の記録もつくりました。横田氏と小野氏はともに両大学を代表する一人として、前記の四〇年史に寄稿文を執筆しています。

打撃部門では、石塚三千之氏（高27、東北大卒）が通算本塁打16本で4位タイ、昭和五十二年の対東北工業大で一試合最多本塁打の三本を放っています。初回の一本目は満塁本塁打でした。

選手ではありませんが、東北工業大の監督を廣野牧雄氏（高1、東北学院大卒）が昭和四五―五六年まで務め、東北大の監督を磯村明宏氏（高28、東北大卒）が昭和五九―六一年、岡崎正行氏（高28回、立教大卒）が平成元―一一年、鈴木得史氏（高40、東北大卒）が平成一二―一三年に務めています。廣野氏は昭和二二年甲子園出場の名選手であり、その後長年連盟理事としても貢献しています。

まず筆頭は、通算最多勝利投手に輝く横田一秀氏（高22、宮教大卒）と小野秀明氏（高31、東北大卒）です。ともに四年間で33勝を挙げました。及川博俊氏（高37、東北大卒）は7位タイの21勝を挙げています。横田氏は昭和47年春に

対東北大でノーヒットノーランも達成。小野氏は二年の春

応援歌探訪 第三回

今回は『二中は何処』を取り上げる。この応援歌について昭和四十五年七月発行同窓会報第三号に中30回後藤敏道氏の解説があるので、引用する。

◇

大正二年六月十三日森正隆知事に伴われて高木男爵が母校講堂において講演を行った。その中で自作の漢詩を吟じたところ、その恰好の滑稽の余り生徒は笑いを堪えかねたものである。

ここで同行の森知事大いに怒りを発し、傲岸の評にたがわず笹倉校長を面罵したため、満場肅然として声なき状態となった。

景仰する校長辱かしめられて、生徒は大きなショックを受けた次第であるが、その夜、五年生千坂虎五郎など生徒有志は先輩である広田和先生（英語担任）のもとに赴き、一夜にして「二中は何処北陵の」の作歌成り、翌十四日朝には西生徒控所に集合した全生徒の前に「汝忘れたるか六月十三日!!」

の副題のもとに発表されたことである。以上は当時四年生に在学した高平威雄先輩の追懐である。
（同窓会報第三号後藤敏道『北陵の歌』より）

◇

大正二年（一九一三年）とは今から凡そ百年前のことである。勿論二中が北六番丁にあった頃である。この元歌は、『夏は来ぬ』を作曲した小山作之助による作曲『敵は幾万ありとても』（明治二十年）の後段部分である。戦後の十年間かは歌われていなかった

二中は何処

一、二中は何処 北陵の高くそびえるビルディング

教化の下に一千の

意気やあがる健男子

意気やあがる健男子

意気やあがる健男子

二、泉が岳に気を集め

広瀬の川に身を潔め

オールウェイズ鍛う武士の道

腕骨ガンガン血は躍る

腕骨ガンガン血は躍る

卒業生のアルバムから



仙台二中最後の回期（昭和21年入学・昭和27年高校4回として卒業した学年）
——昭和23年3年5組*の学級写真

前列中央向かって右側は田淵正範校長、同左側は担任の和多田克己先生。校舎の壁が煤けているのは、戦時中空襲を免れようとして施された塗装の名残。校舎の窓硝子の方々破れたまま補修もされていない。生徒の服装も学生服あり軍服風もあり、又帽子も学生帽に交じって所々戦闘帽風のものもある。履物は下駄もあれば地下足袋もある。戦後の荒廃と困難さが見て取れる。

——生徒数は54人、教室はさぞ満杯であったことだろう。

*) 新制高校に切り替ったのは昭和23年、この回期は当時併設中学校の生徒という位置付けであった。

お写真の御提供を

会報編集担当
企画『卒業生のアルバム
平成22年春季号から新

たが後に復活した。現在でも色々なところに用いられており何処かで耳にしたことのある諸兄も多いことと思う。
『敵は幾万』堀内敬三・井上武士編「日本唱歌集」岩波文庫
『二中は何処』仙台二高同窓会公式サイト <http://www.sendainiko-dousoukai.com/sun/song.html>

から』を始めました。各回期の皆様の卒業アルバムの写真が在校時に撮影した写真などを御提供願います。皆様の御写真は時代時代を物語る貴重な記録であると共に、集約することで潤沢な歴史的資料にもなります。まずは同窓会事務局に御連絡をお寄せ下さい。

電話 022-2221-5651
FAX 022-2221-5686



* 職業編 *

今思ふ事

高橋

賢 (高17回)



私の故郷は数年前に廃線になった「くりでん」の始発駅の石越で

す。小学・中学は隣の若柳に通いました。今は昔の賑わいは見る影もありませんが当時は栗駒山の登山口、細倉鉱山への中継地、築館、佐沼への乗り継ぎ地としてずいぶん人の往来がありました。医者になるべく仙台二高にはいり

津波の恐怖

東日本大震災体験記

鈴木 得央 (高40回)

平成二十三年三月十一日(金)十六時〇〇分頃、私は多賀城市内の国道45号線を激しい渋滞の中仙台方向に向かうとしていました。十四時四十六分に起こった大地震のため市内は停電し、信号も止まっていました。車のラジオは大津波警報発令を伝えてい

ましたが理数の壁が破れず当地の文学部にはいりました。当時は自分の進路に迷い残念ながらすっかりした未来像は描きませんでした。そんなこともあり、私の頭に浮かんでくるのはほとんどが高校時代の事です。同じ新聞部だった仲間、下宿が近かった生徒会長のE君(宮床 法楽寺住職)、弁護士士のI君、よく弁当を作ってくれたY君(小学校長だったが現役で死去)、今は紙屋の社長のT君や軟式野球のS君にもずいぶんお世話になりました。勉強もつらかったけれどみんなの顔を見

るのがたのしくて自分の人生で一番輝いていたと思います。皆で早弁をして昼休みになると我先にバットとボウルを持って校庭に走ったことが昨日のことのようにおもいだされます。かつての青年は還暦も過ぎたある人は年金生活、ある人は第二の職場、地元の二代目は後継者として、かくいう私も小さいながらも印刷会社を六十歳でたちあげました。時代の流れとはいえ、男子校から共学校になった現在、一人のOBとして先輩諸氏の作り上げた「文武一道」の伝統を守り、将来の多くの困難を乗り越え初志をやり遂げる「人間力」をもった後輩諸君の活躍を心から期待しています。三月十一日の東日本大震災以降まだまだ毎日のように余震が続いておりますが、皆様の息災をお祈りいたします。

取り囲まれ、もう外に出ることもできず、次の瞬間車はフワッと波に持ち上げられてしまいました。その後はもう何もすることができず、津波に任せて流されるままでした。「ここで死ぬのか!」と一瞬思いましたが、車は順調に、そしてひっくり返ることもなく、多賀城市八幡の住宅街の方向に流れていきました。国道沿いの店のガラスや、他の車にぶつかりながら、おそらく二〇〇m程流されたと思います。そこで、電柱の支線に車後部が乗り上げる形で引っかかり、やっ

と止まりました。しかし、車が止まった瞬間、ドアの隙間から水が流れ込んできました。この時、二度目の恐怖を感じました。「まずい! ドアが開かなくなる!」と思い、慌ててドアを開けたところ幸いにもすぐに開き、仕事用の鞆を肩からかけて自分の車の屋根に上り、私の車にせき止められた他の車の屋根を伝って、隣にあったアパートの二階のベランダに同じ登り、何とか生き延びることができました。逃げ込んだアパートの部屋には、色々な所から流れ着いた人達が既に十人程いました。また、アパートの近くには、木や電柱にしがみついたまま助けを求める人がたくさんいました。しばらくすると雪が降ってきて、スーツは水に濡れたままだったのでとても寒く感じました。その日は一晩、逃げ込んだアパートの部屋に見知らぬ人達と一緒に泊めてもらいました。ワンセグを持っていた人がいたので、それで名取や気仙沼の様子を見ましたが、とても信じられませんでした。外を見ると、石油コンビナートの火災で遠くの空は真っ赤で、国道45号線は川のようになっていました。目の前の光景も信じられませんでした。翌朝七時〇〇分頃、水が引いていたので、国道45号線に出て、歩いて仙台まで帰ってきました。その時に見た、多賀城市八幡付近から仙台港北ICまでの間の国道45号線の状況は、とても悲惨なものでした。車が至る所でひっくり返り、あるいは折り重なったりして、少なからず犠牲者が出ていることは明らかでした。新聞報道によると、多賀城市内の犠牲者は一八五人、そのうち九三人が市外に住む人で、私のようにたまたま多賀城に行ったり通り掛かったりして、車に乗ったまま犠牲になった人が多かったようです。今はただ、生き延びたことに感謝し、犠牲になった方々のご冥福をお祈りしたいと思います。

平成22年度事業報告

4月30日	金	創立110周年 記念大運動会	仙台二高校庭	
5月29日	土	定例評議員会	北 陵 館	10時
6月 1日	火	同窓会春季号 発行		
6月 2日	水	同窓会総会 第1回当番回期打合会 (高21、33、34、45、46回)	北 陵 館	18時30分
6月24日	木	創立110周年 記念芸術鑑賞会	仙台市民会館	13時
6月24日	木	同窓会総会 第2回当番回期打合会 (高21、33、34、45、46回)	江陽グランドホテル	18時30分
7月 3日	土	同窓会総会 懇親会	江陽グランドホテル	17時
7月中旬		仙台二高クラブ活動後援会への寄付		
8月28日 ～29日	土 日	創立110周年 記念北陵祭	東北大学川内蔵ホール 仙 台 二 高	
10月22日	金	創立110周年記念式典 創立110周年記念祝賀会	東北大学川内蔵ホール 江陽グランドホテル	13時 18時
12月 1日	水	同窓会報第43号 発行		
12月上旬		P T A ・同窓会合同新年会 第1回当番回期打合会 (高22、34、35、46、47回)	北 陵 館	18時30分
1月14日	金	P T A ・同窓会合同新年会 第2回当番回期打合会 (高22、34、35、46、47回)	江陽グランドホテル	18時30分
1月21日	金	P T A ・同窓会合同新年懇親会	江陽グランドホテル	18時20分
2月28日	月	同窓会入会式	仙台二高講堂	10時
		定例理事会開催 (5/19、6/16、8/25、10/1、11/10)	北 陵 館	

平成23年度事業計画案

5月14日	土	第1回評議員会	北陵館	9時30分
6月上旬		同窓会春季号 発行		
6月上旬		同窓会総会 第1回当番回期打合会 (高22、34、35、46、47回)	北陵館	18時30分
6月上旬		第2回評議員会	北陵館	14時
6月24日	金	同窓会総会 第2回当番回期打合会 (高22、34、35、46、47回)	江陽グランドホテル	18時30分
7月 2日	土	同窓会総会 懇親会	江陽グランドホテル	17時
7月中旬		仙台二高クラブ活動後援会への寄付		
12月 1日	木	同窓会報第44号 発行		
12月上旬		P T A ・同窓会合同新年会 第1回当番回期打合会 (高23、35、36、47、48回)	北陵館	18時30分
1月13日	金	P T A ・同窓会合同新年会 第2回当番回期打合会 (高23、35、36、47、48回)	未 定	18時30分
1月20日	金	P T A ・同窓会合同新年懇親会	未 定	18時20分
2月29日	水	同窓会入会式	仙台二高講堂	10時
理事会		適宜開催	北陵館	

P T A ・同窓会
合同新年懇親会報告

平成二十三年一月二十一日(金)、江陽グランドホテルを会場にして、恒例のP同懇親会が開催されました。

ご来賓として高5回仙台医師会顧問山田明之様はじめ四名をお招きし、P T A ・同窓生合わせて一二〇余名の参加となる盛大な会となりました。式次第をここに掲載いたします。

恒例の同窓会入会式挙行!

平成二十三年二月二十八日(月)午前十時より二高講堂において第63回生(三百十六名内女子九十六名)の同窓会入会式が行われた。鈴木誠一理事による入会歓迎挨拶に続き、山下副会長から同窓会組織等に関する説明がなされた。

新入会員に対して同窓会から記念品が贈呈された後、新入会員を代表して評議員の佐久間俊平君より入会挨拶が行われた。なお、63回生の役員は次のとおり(敬称略)。

**平成23年度
学校評議員**

権 奇 哲
東北大学大学院
経済学研究科教授
鈴木 邦 夫
地元町内会役員
同窓生(高11回)

豊 澤 弘 伸
宮城学院女子大学
学芸学部教授
吉 田 幸 子
元P T A 役員
穴 澤 鉄 男
元本校おやじの会会長

○新年懇親会

(十八時二〇分)

①開会の辞

同窓会事務局長

戸田 慶三

②校歌斉唱

③挨拶

学 校 長 庄 司 恒一

P T A 会長 眞 田 昌 行

同窓会会長 西 澤 潤 一

④来賓紹介

⑤叙勲者への記念品贈呈

⑥幹事代表挨拶

鈴木 誠一(高22回)

⑦乾杯

高橋 賢(高17回)

⑧祝宴・アトラクション

⑨応援歌斉唱

⑩万歳三唱

P T A 副会長 張 替 秀 郎

⑪閉会の辞

同窓会副会長 佐 藤 茂

〈当番回期〉

高22・34・35・46・47回

〔一般会計〕平成22年度収支決算報告及び平成23年度予算案

(平成22年 4 月 1 日～平成23年 3 月31日)

(単位：円)

区 分	項 目	予算額 (A)	実績額 (B)	(B) - (A)	平成23年度予算案
収 入	前 年 度 繰 越 金	554,463	554,463	0	2,023,233
	年 会 費	8,400,000	9,189,000	789,000	9,000,000
	(人 数)	(2,800人)	(3,057人)	(263人)	(3,000人)
	入 会 金	1,152,000	1,137,600	-14,400	1,152,000
	(人 数)	(320人)	(316人)	(-4人)	(320人)
	受 取 利 息	1,000	410	-590	1,000
	寄 付 金	0	10,000	10,000	0
	名 簿 等 売 上 金	0	0	0	300,000
	そ の 他 収 入	0	0	0	0
	特 別 会 計 受 入 金	1,500,000	2,000,000	500,000	0
	合 計 (C)	11,607,463	12,891,473	1,284,010	12,476,233
支 出	総会等案内発送費	2,100,000	2,189,475	89,475	2,200,000
	(発 送 通 数)	(16,000通)	(14,342通)	(-1,658通)	
	秋季会報発送費	2,400,000	2,735,189	335,189	2,600,000
	(発 送 通 数)	(16,000通)	(16,048通)	(48通)	
	校 内 活 動 助 成 費	1,100,000	1,120,000	20,000	1,100,000
	卒 業 記 念 品	500,000	494,315	-5,685	500,000
	総 会 旅 費 補 助	250,000	225,740	-24,260	250,000
	総 会 補 填	300,000	393,005	93,005	350,000
	(総 会 出 席 者 数)	(150人)	(110人)	(-40人)	
	P 同 懇 補 填	200,000	46,772	-153,228	200,000
	(出 席 者 数)	(150人)	(101人)	(-49人)	
	地 区 総 会 等 旅 費	300,000	106,070	-193,930	300,000
	地 区 総 会 等 祝 儀	100,000	40,000	-60,000	100,000
	会 議 費	150,000	61,304	-88,696	150,000
	慶 弔 費	170,000	180,000	10,000	170,000
	人 件 費	600,000	570,770	-29,230	600,000
	事 務 消 耗 品 費	100,000	59,668	-40,332	100,000
	切 手 薬 書 送 料	150,000	97,220	-52,780	150,000
	電 話 料	300,000	300,349	349	300,000
	振 込 手 数 料	300,000	380,420	80,420	400,000
	設 備 費	50,000	0	-50,000	50,000
	雑 費	80,000	12,525	-67,475	80,000
	旅 費	500,000	159,600	-340,400	150,000
	教 育 問 題 研 究 費	200,000	0	-200,000	200,000
	110周年記念事業費	1,500,000	1,695,818	195,818	0
	特 別 会 計 繰 入	0	0	0	2,000,000
	予 備 費	257,463	0	-257,463	526,233
	合 計 (D)	11,607,463	10,868,240	-739,223	12,476,233
繰 越 金	(C) - (D)	0	2,023,233		0
残 高 (H23. 3. 31)	現 金(事 務 局)		47,626		
	現 金(事 務 所)		33,685		
	普通預金(七 十 七)		3,090,042		
	郵便振込(泉南中山)		2,880		
	郵便貯金(大 町)		0		
	仮 払 金		0		
	預 り 金		-1,151,000		
	総 会 勘 定		0		
	差 引 合 計		2,023,233		

〔特別会計〕平成22年度収支決算報告

(平成22年 4 月 1 日～平成23年 3 月31日)

(単位：円)

区 分	項 目	収 支 決 算 額
収 入	前 年 度 繰 越 金	20,339,917
	預 金 利 息	45,873
	合 計	20,385,790
支 出	一 般 会 計 繰 入 金	2,000,000
	一 校 内 環 境 整 備 基 金	5,000,000
	合 計	0
次 期 繰 越 金		13,385,790
預 金 等 残 高 (H23. 3. 31)	定 期 預 金 (七 十 七 銀 行)	13,200,000
	普 通 預 金 (七 十 七 銀 行)	185,790
	合 計	13,385,790

支部総会 同期会 開催報告

仙台中二さんきゅう会

丸谷 孝郎（中39回）



さんきゅう会
（仙台中二39回卒業）
神谷 弘（幹事）
笠松 熱
丸谷 孝郎
萩原 卓
矢嶋 一郎
田所 淑郎
平成22年11月26日（木）
東京銀座七丁目
かこいや

生徒の女子進出の状況や大学進学、仙台一高との拡大、応援団の話など有意義でした。年齢九十を越えますと支障

も多くなる様ですが、元気で次回、の会合を約束して散会しました。

謹みて申し上げます。
年末の候を迎え御多忙のこと存じ上げます。
母校いよいよ御繁栄心より
お慶び申し上げます。

さて、去る平成二十二年十一月二十九日かこいや銀座七丁目店にて仙台中二さんきゅう会東京支部の会合を開催しました。常連の山川民夫、堀田満両兄は欠席しましたが、六名出席し有意義な会合となりました。

第18回岩手県在住 仙台中二高（二中）・ 仙台一高（一中） 合同同窓（懇親）会

鈴木 恒男（高5回）

全国的にも珍しいとされるこの会が今年も平成二十二年九月十八日午後六時からエスポールいわてにて盛大に開催されたので報告します。

◇

まず本年度幹事校の氏家と國二高会長から挨拶があり、本会の発足と経緯の報告があった。後日立派な冊子として御披露される予定。仙台一高側からは遠藤直樹幹事長が代表挨拶された。

この会の大きな楽しみである両校の御来賓挨拶は仙台中二高庄司恒一校長から、今年も岩手医科大学の小川彰学長も出席されて嬉しいし、二高も男女共学となって初めて卒業生（高62回）が出て、その一人岩手医大に入学された長田麗さんも見えられ新しい時代に突入したと話され、先日NHK番組で西澤潤一仙台中二高同窓会長が出演され、白衣を着てウィットに富む発言と笑顔が素晴らしかったと紹介された。そして本年十月二十二日の本校百十周年式典には是非ご出席をと挨拶された。

仙台一高氷室真也校長からはご自身が同校のご出身であり、本年石巻高校よりご転任になられたこと、嬉しいこととして野球の定期戦で三年ぶりに勝ったこと、夏のオープンキャンパスに二、二〇〇名の参加者があったとし、その中で三年生が「一高の自由」

のテーマで一高の自由とはテストとか受験以外に行動、思想、スポーツ等それを引き出させる自由があると保護者、指導者達の前で発表してくれたことは、これは指導の心が分かってきているなという感じを深くしたと挨拶をされた。

二高中條克浪同窓会理事からは百十周年事業の準備で忙しいが万全を期していること、一高小崎茂事務局長からは、仙台一高二高（中）の合同の会は全国的にみても少ないし、本会を北の拠点として大切に思っていることが述べられた。

その後懇親会が和気あいあいと進められたが、大きな話題として今年から男女共学が始まった一高は女子八二名（全体三二三名）が入学された由、先達の二高の実績を参考にしていること、実際に今年二高卒業の長田麗さんが出席された。文字どおり紅一点なので皆さんから引っ張りだこだった。進行は各人の状況を一々二分でとの幹事の司会で始められたが、最初の人から十分位話されその

後はお察しのとおりでご来賓のお帰りの時間寸前まで白熱した。最後は恒例の両校の校歌、凱歌を熱唱し散会となった。

◇

今回の出席者は二高側十名、一高側十名でしたが、一時は三十名を越す人数でしたので今後を期待したいものです。

仙台中二高出席者

氏家國（中44）、佐藤秀雄（高1）、和田謙郎（高3）、鈴木恒男（高5）、佐藤邦夫（高12）、小川彰（高19）、庄司恒一（高22）、橋浦礼次郎（高23）、中條克浪（高27）、長田麗（高62）

第18回仙台一中・一高・仙台中二高懇親会



東日本大震災被災者への支援について

去る平成23年 3 月11日午後 2 時46分観測史上最大級の地震が宮城県を中心とする東日本を襲い、その後 1 時間前後に巨大津波が太平洋沿岸部を呑み込み、信じがたい大災害をもたらしました。被害に遭われた同窓生・ご家族・ご親族の皆様方に対し、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

さて、震災直後から被災仙台二高関係者（教職員・在校生・同窓生及びそのご家族）への支援の声が同窓生の間で高まっております。特に在京同窓会を始めとする被災地以外に居住する同窓生からは、地震直後の情報が少なかったこともあり、すぐにも義援金の募集を始めようとの声もありました。

同窓会ではそのような声を受け、震災一週間後の 3 月18日（金）に被災した方々へのお見舞いの言葉を、同月29日（火）には会長のお言葉を同窓会公式サイト上に掲載しました。

その後、4 月13日（水）に理事会を、5 月14日（土）に評議員会を開催し、二高関係被災者への支援のあり方について話し合い、評議員会では「理事会一任」となりました。

支援の方法については対象を①学校施設関係、②学校関係者（教職員・在校生及びそのご家族）、③同窓生（ご家族を含む）、の 3 つに区分し、それぞれに対する支援をどうするかを検討しました。

その結果を以下に掲げます。

①学校施設関係

イ 被災状況

体育館の天井材落下、講堂の梁・壁・天井等に隙間発生、ヨット部艇庫及びヨット十数艇流失、弓道場破損、他

ロ 支援策

特に震災復興目的の支援は行わず、昨年の百十周年記念事業で創設した「校内環境整備基金」を活用し、県の災害復旧が及ばない部分に対し支援する。

※学校施設関係は基本は県の災害復旧事業にて行われる。この県の災害普及事業は、国庫から補助が為されるもので、原型復旧が基本のため機能向上は認められない。

ハ 議論等

- 地震による損傷はごく一部に限られ、県の災害復旧事業で十分復旧が図られる。
- 施設の多くが老朽化しており、一時的な支援より継続的な支援が必要である。
- ヨット部の被害については、同 O B 会を中心に支援活動を行っているものの、被害額が数千万円と予想されるため、一朝一夕には解決しない。

② 学校関係者（教職員・在校生及びそのご家族）

イ 被災状況

- 教職員：1 名（家屋流失）

・在校生：33名

祖父母行方不明、家屋流失・全半壊・浸水、保護者就労不能、他

ロ 支援策

当平成23年度予算から見舞金として特別会計繰入金（200万円）の範囲内で被災生徒に差し上げる。結果は総会で報告する予定。

ハ 議論等

- 住居が住めなくなったり、保護者の就労問題等は支援を急ぐ必要がある。
- 義援金を集めてもどのくらい集まるか不明だし、公的義援金と同様に配分方法が問題となる。
- 長期的な支援は奨学会と一体で行う方がより効果的であり、奨学会の支援の方向を見極めてからでも遅くない。

③ 同窓生（ご家族を含む）

イ 被災状況

不明。

ロ 支援策

同窓会としての支援は行わない。

ハ 議論等

- 被災状況の把握が困難である。
- 上記②と同様に配分方法が問題である。
- 被災状況の調査漏れがあった場合に修正が困難である。

以上、同窓会としての支援は被災生徒への「見舞金」とすることになりました。

全国の同窓生諸兄の想いは間違いなく被災地へ届いています。同窓会として出来ることを議論し集約した方向性ですので、事情をご賢察の上、今後被災地または被災者への末永いご支援をお願いします。

その他、「通常の義援金の他に『ふるさと納税』で被災地を支援する方法もある」との意見も出されました。確かに震災後の「ふるさと納税」は増加したと報ぜられています。

○平成23年 5 月15日付け神奈川新聞「東日本大震災：被災 3 県へのふるさと納税が400億円突破、前年度の同制度全国寄付総額の 6 倍」

以下に宮城県と総務省のアドレスを載せますので、ご参照ください。

・宮城県

<http://www.pref.miyagi.jp/zeimu/hurusato/tetsuduki.html>

・総務省

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_zeisei/czaisei/czaisei_seido/080430_2_kojin.html

また、義援金は日本赤十字社や報道機関等の全国版で行った場合、被災地全体に配分されます。どこかの自治体にピンポイントで支援したいと思われる方は、それぞれの自治体（都道府県または市町村）ごとに義援金を受け付けていますので、各自治体のホームページを検索してください。



母校近影——正門左側に定期戦の立て看板が見える

同窓会会費の納め方

・平成二二年度分を二回お納めの方へ
 通例では春季号にのみ同封する会費払込用紙（払込取扱票）を、昨年は十二月発行の43号にも再度同封致しました。これは昨年平成二二年度の時点で未だ会費をお納めになっていなかった方々に御願います。為に同封したものでしたが、既納の方の中にもこの払込取扱票にて会費をお納め下さった方がいらっしゃいます。その分は平成二二年度分会費として計上させて頂きます。どうか御了承の程を御願ひ申し上げます。

・一言「言いたい方へ」
 払込取扱票の通信欄は御連絡等に御利用頂いております。御意見もお寄せ下さい。内容によっては御了解を頂いた上で会報に掲載致します。

平成22年度 年会費 納入率・納入額上位5番

平成23年 3 月31日現在

【納 入 率】		
順位	回 期	納入率
1	中43回	49.2%
2	中42回	47.5%
3	中39回	46.2%
4	高 3 回	45.9%
5	高11回	44.3%

【納 入 額】		
順位	回 期	納入額
1	高11回	351,000円
2	高14回	282,000円
3	高 6 回	270,000円
3	高10回	270,000円
5	高 4 回	267,000円
5	高 9 回	267,000円

創立百十周年記念「同窓会員名簿」発送状況

同窓会公式サイトでもご案内しましたが、今回の大震災により発送が遅れてしまい、誠に申し訳ありません。岩手・宮城・福島を除く地域へは四月五日から発送を始め、三県の中で特に被害の大きい沿岸部（岩手県：大船渡市・陸前高田市・気仙郡 宮城県：石巻市・東松島市・気仙沼市・牡鹿郡・本吉郡、福島県：南相馬市・双葉郡）を除く地域へは四月二十八日から発送を始めた。購入をお申し込みになった方々、もう名簿は届いたでしょうか？

三県の沿岸部では、避難先不明の方々や避難所生活を余儀なくされている方々がまだ数多くいらっしやると聞いており、発送できない状況が続いておりますが、配送業者と調整しながらできるだけ早くお届けできるように検討して参りますので、今しばらくお待ちください。

さて、名簿がお手元に届いた方からの問い合わせや新たな情報が数件寄せられております。早速にでも正誤表等をお送りする必要があるのですが、今後同様の問い合わせ等が寄せられると思いますので、正誤表等は秋季号でお知らせする予定です。

理事会

訂正

・創立百十周年記念同窓会名簿
 第13頁「評議員・回期常任委員」高校6回

誤 評議員 土岐満夫
 常任委員 大友一郎／加藤栄一／鈴木文夫

正 評議員 大友一郎
 常任委員 土岐満夫／加藤栄一／鈴木文夫

編集部からの御願い

―新企画への情報及び原稿の御願い―

会報編集では次の企画を進めています。

一、応援歌探訪

現在、仙台二高には旧仙台二中時代からのものも含め応援歌が十一曲あります。校歌を始め応援歌も校風や伝統の一郭を成しています。これらの歌の創られた経緯、作詞者、作曲者等を改めて探訪するのにも意義深きことです。既に平成22年春季号から掲載を始め、当号では3回目となりました。このような解説を応援歌等全曲に及ぼすというのがこの企画の趣旨です。そこで、各応援歌等の①作詞者、②作曲者（又は元歌）、③制作時期、④制作の動機などに就いて情報の御提供を御願ひ致します。宛て先は同窓会事務局、郵送もしくはファクスにて御願ひ致します。

二、卒業生の進学先報告

「北陵健児の行くところ」〈進学編〉

卒業して大学に進み大学・大学院在学中の方を対象にします。①今自分の在学している大学の様子、②自らの学生生活ぶり、③何を学んでいるか等を簡単に紹介して下さい。全国に展開する同世代の卒業

生にも有効な連絡となります。字数は八百字程度、写真も一枚程度。宛て先は同窓会事務局、郵送もしくはファクスにて御願ひ致します。

三、卒業生の活躍

「北陵健児の行くところ」〈職業編〉

既に社会に出て第一線で活躍している卒業生の方が対象です。①自分の働いている分野の紹介、②担っている業務の概要、③仙台二高・旧仙台二中在学中の経験で社会人になって活かしているもの等を簡単に紹介して下さい。卒業生の活躍ぶりが同窓会全般に伝わり人材の多才さも改めて認識されます。字数は八百字程度、写真も一枚程度。宛て先は同窓会事務局、郵送もしくはファクスにて御願ひ致します。

原稿等の送り先

九八〇・八六三

仙台市青葉区川内渡橋通一
 仙台二高同窓会事務局
 FAX 〇三・三二・五六八六
 電話 〇三・三二・五六五一

『応援歌の歴史情報在中』、『卒業生の進学先報告原稿在中』、『卒業生の活躍原稿在中』と封書及び書面に明記願ひします。

平成22年度 同窓会費納入状況

平成23年 3 月31日現在

	会報 発送数				口数	納入率	入金額		会報 発送数				口数	納入率	入金額		
中27	—	—	—	—	—			高 8	214	70	32.7%	210,000	高36	167	29	17.4%	90,000
中28	9	1	11.1%	3,000				高 9	218	89	40.8%	267,000	高37	153	16	10.5%	48,000
中29	11	0	0.0%	0				高10	262	90	34.4%	270,000	高38	158	20	12.7%	60,000
中30	11	2	18.2%	6,000				高11	264	117	44.3%	351,000	高39	181	26	14.4%	78,000
中31	12	1	8.3%	3,000				高12	243	77	31.7%	231,000	高40	181	26	14.4%	78,000
中32	11	3	27.3%	9,000				高13	221	74	33.5%	225,000	高41	183	13	7.1%	39,000
中33	13	3	23.1%	9,000				高14	259	93	35.9%	282,000	高42	204	12	5.9%	36,000
中34	16	4	25.0%	12,000				高15	234	81	34.6%	243,000	高43	204	21	10.3%	63,000
中35	18	5	27.8%	15,000				高16	227	67	29.5%	201,000	高44	201	20	10.0%	60,000
中36	18	3	16.7%	9,000				高17	237	66	27.8%	198,000	高45	215	21	9.8%	63,000
中37	36	10	27.8%	30,000				高18	203	56	27.6%	168,000	高46	217	21	9.7%	63,000
中38	26	4	15.4%	12,000				高19	208	60	28.8%	180,000	高47	243	19	7.8%	57,000
中39	39	18	46.2%	54,000				高20	183	46	25.1%	138,000	高48	233	16	6.9%	48,000
中40	48	14	29.2%	42,000				高21	242	63	26.0%	189,000	高49	245	20	8.2%	60,000
中41	57	21	36.8%	63,000				高22	286	69	24.1%	207,000	高50	229	13	5.7%	39,000
中42	61	29	47.5%	87,000				高23	196	53	27.0%	159,000	高51	232	19	8.2%	57,000
中43	65	32	49.2%	96,000				高24	202	40	19.8%	120,000	高52	221	19	8.6%	57,000
中44	86	27	31.4%	81,000				高25	202	47	23.3%	141,000	高53	248	11	4.4%	33,000
中45	105	39	37.1%	117,000				高26	217	46	21.2%	138,000	高54	250	16	6.4%	48,000
中46	102	30	29.4%	90,000				高27	206	42	20.4%	129,000	高55	256	26	10.2%	78,000
中47	118	37	31.4%	111,000				高28	204	47	23.0%	141,000	高56	259	23	8.9%	72,000
高 1	125	36	28.8%	108,000				高29	190	26	13.7%	78,000	高57	277	24	8.7%	72,000
高 2	155	58	37.4%	174,000				高30	192	36	18.8%	111,000	高58	279	37	13.3%	111,000
高 3	170	78	45.9%	234,000				高31	188	28	14.9%	84,000	高59	287	32	11.1%	96,000
高 4	206	89	43.2%	267,000				高32	175	32	18.3%	96,000	高60	282	47	16.7%	141,000
高 5	198	72	36.4%	216,000				高33	157	28	17.8%	84,000	高61	291	60	20.6%	180,000
高 6	217	90	41.5%	270,000				高34	142	25	17.6%	75,000	高62	307	81	26.4%	243,000
高 7	174	68	39.1%	204,000				高35	146	27	18.5%	81,000	合計	4,134	2,666		9,189,000

 青色地は納入率上位 5 位、
 灰色地は納入額上位 5 位

1 口 ￥3,000-

生きてゐる証し

―第六十六回定期戦、見事な逆転勝利―

大震災により開催が危ぶまれた定期戦でしたが去る五月十四日(土) 予定通りクリネックススタジアム宮城(県営宮城球場)で行われました。これは偏に定期戦にかける生徒

たちの思いを受け止め、震災直後から開催に向けて動いて下さった、両校の校長先生はじめ担当教諭の皆様のご尽力の賜物でした。※
「今、感じている胸が張り

裂けそうな緊張感こそが生きている証しなのだという思いを持って、最後まであきらめることなくプレーします(略)」という二高の柴田主将の選手宣誓は多くの人の心をつつ素晴らしいものでした。

試合は二高平栗、一高阿部両投手が順調な滑り出しを見せ静かに始まりました。試合が動いたのは三回表、一高が一点を先制すると、二高もそ

の裏二番谷藤の二塁打と四番柴田の適時打ですかさず同点に追いつきます。

しかし、同点も束の間、四回表に勝ち越された二高は、その後毎回のように得点圏に走者を進めるものの、あと一本が出ない嫌な展開となります。膠着した中で迎えた八回裏、先頭の四番柴田の中前打

を足掛かりに一死満塁のチャンスを作り、八番安田が起死回生のレフト前タイムリーヒットを放ち三対二と逆転。最終回は、平栗が一高の攻撃を三人で退け、見事昨年の雪辱を果たすとともに、今春就任した佐藤貴志新監督(高40)に初勝利をプレ

二高3-2-一高

ゼントしたのでした。

スタンドでは両校とも統率のとれた応援が盛り上がり、終戦直後の困難を乗り越えて開催された復活第一回定期戦と同様に、後世に語り継がれるものとなることでしょう。

(高28回 岡崎正行)

【編集担当注】

※平成二十三年春季高校野球大会は大震災の影響で中止。

※一高は野球練習場が津波を被り使用不能、二高側も練習に協力。



硬式野球定期戦開会式―平成23年 5月14日(土) 宮城球場



二高応援団―今年は幹部が4名、団長は女子



一高応援団



二高の優勝―「勝利の歌」

三部定期戦及び 軟式野球定期戦結果速報

今年は硬式野球定期戦の翌週、5月21日(土)に行われました。各部熱戦、激戦が展開されました。(軟式野球のみ5月22日(日)実施)

試合結果

バレーボール	二高 0 - 3	一高 <負け>
柔道	二高 一高4人残	一高 <負け>
バスケットボール	二高 40 - 92	一高 <負け>
軟式野球	二高 3 - 5	一高 <負け>

母校の状況

平成十九年度より共学化された二高は当平成二十三年度で共学化五年目となった。既に共学回期を二学年送り出している。

別表に平成二十三年度在籍

数を示す。各学年及び各学級に加え男女の内数も併記した。現三年生が共学三期である。

三年生、二年生、一年生と共
学回期が進むに従い女子比が
30%、31%、34%と上がつて
いることに気付かれよう。共
学一期では女子数が七〇名程
度であったことからして、こ
の趨勢で行けば、遠からぬ内
に女子比が四割となろう。現
在生徒会長は男子、応援団長
は女子である。

学級編成は男女混合であり、

平成23年度在籍数

平成23年 5 月 9 日現在

学年	組	男子	女子	合計
1 年	1 組	26	14	40
	2 組	25	14	39
	3 組	26	13	39
	4 組	26	14	40
	5 組	27	13	40
	6 組	26	14	40
	7 組	26	13	39
	8 組	26	14	40
	合計	208	109	317
入試合格者数	210	110	320	

2 年	文系	1 組	24	19	43
		2 組	24	19	43
	理系	3 組	30	11	41
		4 組	30	11	41
		5 組	31	7	38
		6 組	29	11	40
		7 組	26	14	40
		8 組	27	9	36
	合計		221	101	322
	入試合格者数		221	99	320

3 年	文系	1 組	28	16	44
		2 組	28	16	44
	理系	3 組	26	9	35
		4 組	26	9	35
		5 組	35	0	35
		6 組	30	9	39
		7 組	18	20	38
		8 組	27	15	42
	合計		218	94	312
	入試合格者数		224	97	321

全体合計	男子	女子	合計
	647	304	951

平成二十三年 度

入学式行われる

四月二十一日(木)午後一時
三十分から平成二十三年度入
学式が仙台二高講堂において
厳かに行われた。

例年であれば四月八日に行われていたものであるが、本年は去る三月十一日に発生した「東日本大震災」のため約二週間遅れの入学式となった。式は国歌斉唱、入学許可、

科系六学級となっている。

表には現れていないが、昨平成二十二年度から全県一学区となったので、入学生の出身中学が多様化している。

推薦選抜制度は当年度も継続されているが、現下の見通しでは平成二十五年度に廃止され別な方式に変わる予定である。

同窓会教育問題担当

同窓会教育問題担当

発展がある。皆さんにとってこれからの三年間はいろいろな意味で本当に大切な時期なので、悔いのないようにしっかりと過ごしていただきたい。」

東日本大震災——ヨット部被災報告

津波のあとに残ったもの

ヨット部顧問 天野 宏 二

ヨット部は近年名取市閑上を拠点として活動していました。ご存じの通り閑上地区は3月11日の津波により壊滅的な被害を受けました。閑上地区の一番海側にあったヨットハーバーは見る影もなく、百産を置いていましたが、今は何も残っていません。津波後何か落ちてはいないかと閑上一帯を何日も探し歩きました。が満足なものはなく、無残な姿の救助艇を発見できただけでした。

艇余りあったデインギーヨット、十艇近くあった救助艇、備品倉庫や管理棟・・・津波は形あるものを全てを破壊し、私たちの目の届かないところへ持ち去ってしまいました。

ヨット部は部員数も多くはなく、大勢の目に触れる機会もない部活ですが、海と風の中でその厳しさと優しさに触れながら多くの方々に支えられて活動してきました。そして

仙台三高ヨット部も当時ヨットを五艇、そして備品庫に整備道具や乗艇着など部の全財



部バー

て他の部活の生徒と同じように、自らを成長させ、仙台三高の代表として活躍しようとの前向きに日々頑張ってきた。

あの日、一瞬で今までの全てを失ってしまいました。が、今、生徒たちは悔しさに耐え、「仙台一高ヨット部」の火を灯し続けるんだという闘志を日に日に大きくさせています。彼らの部活に対する熱い想いはあの津波にも流されずに残ったのだと思います。



津波により倒壊した二高ヨット部
備品庫 ー閑上ヨットハーバー

【大運動会も延期】例年四月末に行われる大運動会もこの度の震災の影響で延期となり開催は十月七日（金）の予定。

平成23年度 大 学 入 試 合 格 者 数 (延べ人数)

現役及び一浪男女別

		合 計	23年3月卒業			全 浪 人	22年3月卒業				
			現役	男	女		1浪	男	女		
国 立 大 学		221	129	82	47	92	87	71	16		
公 立 大 学		16	10	3	7	6	4	4	0		
私 立 大 学		397	131	70	61	266	249	214	35		
大学校・専修・ その他の学校		3	1	1	0	2	1	1	0		
総 計		637	271	156	115	366	342	291	51		
国 立 大 学	北海道大	8	5	2	3	3	2	2	0		
	弘 前 大	4	2	1	1	2	2	1	1		
	岩 手 大	3	1	0	1	2	2	2	0		
	東 北 大	文	7	4	1	3	3	3	1	2	
		法	5	2	1	1	3	3	1	2	
		経済	6	1	0	1	5	5	5	0	
		教育	9	4	0	4	5	5	3	2	
		理	4	4	4	0	0	0	0	0	
		工	36	21	17	4	15	15	14	1	
		医	医	12	4	2	2	8	6	5	1
			保	1	1	1	0	0	0	0	0
	歯	4	2	2	0	2	2	2	0		
	薬	1	1	1	0	0	0	0	0		
	農	4	4	3	1	0	0	0	0		
	東北大小計	89	48	32	16	41	39	31	8		
	宮城教育大	10	10	6	4	0					
	秋 田 大	3	2	2	0	1	1	0	1		
	山 形 大	24	15	8	7	9	9	6	3		
	福 島 大	2	1	1	0	1	1	1	0		
	茨 城 大	5	1		1	4	3	3	0		
	筑 波 大	4	4	2	2	0					
	群 馬 大	1				1	0	0	0		
	埼 玉 大	7	2	2	0	5	5	5	0		
千 葉 大	3	3	3	0	0						
お茶の水女子大	2	2	0	2	0						
電気通信大	1	1	1		0						
東 京 大	文Ⅰ	3	2	1	1	1	1	1	0		
	文Ⅱ	2				2	2	2	0		
	文Ⅲ	2				2	2	1	1		
	理Ⅰ	5	5	4	1	0					
東京大小計		12	7	5	2	5	5	4	1		
東京医歯大		3	3	0	3	0					
東京外語大		2	1	0	1	1	1	1	0		
国 立 大 学	東京学芸大	2	1	1	0	1	1	1	0		
	東京工業大	2	2	2	0	0					
	東京農工大	3	1	0	1	2	2	2	0		
	一 橋 大	9	3	3	0	6	6	6	0		
	横浜国立大	4	3	1	2	1	1	1	0		
	新 潟 大	5	3	3	0	2	2	1	1		
	金 沢 大	1	1	1	0	0					
	浜松医科大	1	1	0	1	0					
	名古屋大	1	1	1	0	0					
	京 都 大	7	4	4	0	3	3	3	0		
	大 阪 大	1				1	1	1	0		
	神 戸 大	1				1	1	0	1		
	岡 山 大	1	1	1	0	0					
	国立大学合計		221	129	82	47	92	87	71	16	
公 立 大 学	札幌医科大	1				1	1	1	0		
	岩手県立大	1	1	1		0					
	宮 城 大	2	2	1	1	0					
	国際教養大	2	1		1	1	1	1	0		
	福島県医科大	3	1	1	0	2	1	1	0		
	高崎経済大	3	3	0	3	0					
	都留文科大	2	2	0	2	0					
	静岡県立大	1				1	1	1	0		
	兵庫県立大	1				1	0	0	0		
	公立大学合計		16	10	3	7	6	4	4	0	
国公立大学合計		237	139	85	54	98	91	75	16		
私 立 大 学	岩手医科大	6	2		2	4	0	0	0		
	東北学院大	13	5	3	2	8	8	5	3		
	東北工業大	3	2	2		1	1	1	0		
	東北福祉大	1				1	1	1	0		
	東北薬科大	4	2	1	1	2	2	1	1		
	自治医科大	1	1	1	0	0					
	獨協医科大	1	1	1	0	0					
	文 教 大	2				2	2	1	1		
	帝京平成大	1	1	0	1	0					
	明 海 大	1	1		1	0					
	青山学院大	3	2		2	1	1	0	1		
	杏 林 大	2	1		1	1	0	0	0		
私 立 大 学	慶應義塾大	30	7	7	0	23	23	22	1		
	芝 浦 工 大	12	7	2	5	5	5	5	0		
	順 天 堂 大	2				2	0	0	0		
	上 智 大	2	1	1	0	1	1	1	0		
	昭 和 大	3	1		1	2	1	1	0		
	成 蹊 大	1				1	1	1	0		
	中 央 大	70	25	11	14	45	45	39	6		
	津 田 塾 大	2				2	2	0	2		
	東 海 大	3				3	2	2	0		
	東京工科大	2	2	2		0					
	東京女子大	2	1		1	1	1	0	1		
	東京電機大	1	1	1	0	0					
	東京都市大	1				1	1	1	0		
	東京農業大	7	2	2	0	5	4	2	2		
私 立 大 学	東京理科大	48	14	11	3	34	34	32	2		
	東 邦 大	1				1	1	1	0		
	日 本 大	8	3	2	1	5	5	4	1		
	日本医科大	1				1	1	1	0		
	日本歯科大	4				4	4	4	0		
	日本獣医生命大	2				2	2	2	0		
	日本女子大	1	1	0	1	0					
	法 政 大	25	6	4	2	19	19	15	4		
	明 治 大	51	11	4	7	40	40	35	5		
	立 教 大	12	7	4	3	5	5	4	1		
	早 稲 田 大	41	14	7	7	27	25	24	1		
	麻 布 大	1	1	0	1	0					
	神 奈 川 大	2				2	2	1	1		
	北 里 大	2				2	2	1	1		
私 立 大 学	聖マリアンナ医大	3				3	0	0	0		
	金沢医科大	1				1	0	0	0		
	同 志 社 大	6	1	1	0	5	5	4	1		
	立 命 館 大	11	8	3	5	3	3	3	0		
	大阪医科大	1				1	0	0	0		
	私立大学合計		397	131	70	61	266	249	214	35	
大 学 校	防衛大学校	3	1	1	0	2	1	1	0		
	大学校合計		3	1	1	0	2	2	2	0	
合 計		637	271	156	115	366	342	291	51		

平成23年 4 月30日現在

今春の人事異動

▼転出された先生方▲

三塚 明彦教頭（地歴）

（松島自然の家所長）

戸田 慶三教諭（物理）

（仙台東高）

伊藤 博之教諭（地歴）

（仙台一高）

谷藤 正樹教諭（地歴）

（名取北高）

梅村 聖一教諭（理科）

（泉館山高）

木村 裕之 主査

（鶴谷特別支援学校主任主査）

岡本 紳 技師

（県第二工業高）

▼校内昇格された先生▲

大津 直 主幹（次長）

（仙台二高総括主幹（次長））

▼転入された先生方▲

小林 裕介教頭（地歴）

（塩釜高）

金澤 俊範教諭（物理）

（白石高）

菊地 敏広教諭（英語）

（仙台北山高）

佐々木慎志 教諭（地歴）

（気仙沼高）

三宅 保士教諭（理科）

（本吉響高）

会員計報

佐藤 貴志 教諭（地歴）
（県教委文化財保護課）

洞口 薫子 教諭（国語）

小竹由紀子 教諭（英語）

（宮城広瀬高）

添田 雅史 主査

（県工業高）

佐藤 伸 技師

（中新田高）

早坂 孝志 非常勤講師（化学）

芳賀 廣志 非常勤講師（美術）

▼退職された先生方▲

増子 進一 教諭（英語）

若生 敏由 教諭（英語）

粕谷 正博 教諭（国語）

下河辺行隆 非常勤講師（数学）

宮川 南 非常勤講師（美術）

大友 豊 情報化推進支援員

嶋田 敬一 キャリアアドバイザー

平成15年

1/31 鈴木 隆幸殿 中45回

平成21年

11/28 千石 重端殿 高2回

平成22年

4/12 大立目謙貞殿 中41回

4/14 北浦 弥殿 高7回

5/27 三浦 浩殿 高11回

6/ 桂 久男殿 高1回

6/ 5 高平 猛殿 中43回

7/31 鈴木 久夫殿 高3回

9/ 9 草刈兵一郎殿 中46回

9/21 菊地 滋殿 高9回

9/27 新妻 正光殿 高15回

10/ 1 正木 道行殿 中33回

10/ 8 山田 敏殿 中47回

10/20 山岸 敏宏殿 高8回

10/23 塩谷 国治殿 高3回

11/ 4 杉山 惇殿 高7回

11/ 6 高橋 敏勝殿 高6回

平成23年

1/ 1 奥田 信也殿 高6回

1/12 伊藤 実殿 中43回

2/14 八巻 明彦殿 中46回

3/12 伊藤 栄雄殿 中43回

4/ 4 氏家 和國殿 中44回

4/16 下山 正夫殿 中40回

5/16 笛 悦郎殿 中44回

次号44号の原稿締切は平成二十三年十月二十日（木）です。同窓会事務局まで原稿をどうぞお寄せ下さい。

編集後記

この度の大震災による大津波、その被害の酷さに言葉が有りません。千年余り前にも仙台平野の奥にまで津波が来たことは郷土史の文脈で語られることは有っても、科学技術の文脈で語られることは余り無かったようです。現代に生きる私共は近代的な知識や技術を持っていることから自分達の方が賢いと錯覚していたのかも知れません。先人達が残してくれたもの、先人達の時代から私共の時代まで引き継がれたものの意義を謙虚に再確認する必要があると感じております。（高28回 佐藤 茂）

会費振込は銀行口座でも可能です！

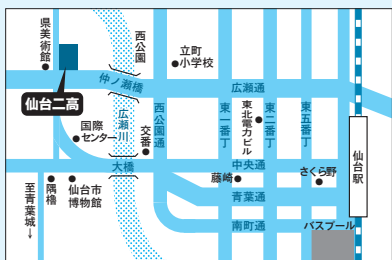
従来、総会案内号（毎年六月発行）に会費払込票を同封し、郵便局でお払込頂いていたところですが、銀行も御利用頂けます。銀行口座は次の通りです。

七十七銀行 芭蕉の辻支店
普通口座 宮城県仙台第二高等学校同窓会 会長西澤潤一
店コード 2004

預金口座番号 0097845

尚、お振り込みの際には卒業回期、若しくは卒業年「〇年三月」、及び御名前を必ず御記入下さい。

また、振込手数料を差し引いた額の振込額として下さい。郵便局でも銀行でも足をお運びの際に御利用願います。（理事会）



二高への交通の便

<仙台駅前から>

▶仙台市営バス・・仙台駅前バスプール16番から730、739系統『二高・県美術館前』下車、運賃180円
▶仙台市営市内観光循環バス『るーぶる仙台』・・仙台駅前バスプール15-3番、運賃250円（1回券）、600円（1日券）。但し、瑞鳳殿、大橋、青葉山、八幡神社等とを大きく経由してから二高前に到達、時計回りのみの循環運行です。